

【様式1】

概要書

<p>研究名</p>	<p>震災により復旧が必要な古民家の漆喰壁修復技法の構築とその技術資料の作成</p>
<p>民間機関等 (相手方)の名称</p>	<p>有限会社 高定左官</p>
<p>研究の概要</p>	<p>近年、建築分野においては「湿式工法（施工方法の中で水の使用を含む工法）」の衰退、「乾式工法（施工方法の中で水の使用を含まない工法）」の普及により、左官業そのものの需要が減り、左官職人が少なくなっている。「湿式工法」の施工性、コスト等を考えると、乾式工法が近年の住宅等には多く用いられている。</p> <p>今回修復する「農家型長屋門を持つ古民家」においては、昔ながらの伝統的工法が使用され、古民家外壁や内壁、また敷地内土蔵には漆喰壁が用いられている。この歴史ある建築物を維持するには、大変費用がかかる。宮城県栗原市地域の過去10年間を振り返ると、震度の大きな地震としては、2003年・宮城県北部地震、2008年・岩手・宮城内陸地震、2011年・H23東北地方太平洋沖地震を含む計3回の地震があった。</p> <p>その間の建築物への被害、経年劣化などにより、破損した漆喰壁をそのままにする所有者が増えている。所有者の高齢化や多額な修復費用のため、修復できずにいる現状がある。</p> <p>当社は、国の重要文化財・旧盛岡銀行岩手支店の漆喰壁補修にも関わる地域の代表的な左官技術を有する職人企業である。今回の共同研究では、地域資源である古民家漆喰壁の修復への全面的に協力すると共に、学生の左官技術向上を図ることへの協力もしたいと考える。</p> <p>そのため、今回学生とともに専門課程の総合製作実習と連携して、漆喰壁の修復を手掛けることにより、漆喰塗りの技術習得と共に、少しでも農家型長屋門所有者の方々の手助けになればと考えた。併せて、漆喰壁修復に関する左官技術研究や技術情報が少ない現状であるため、「漆喰壁塗り(土壁)教材見本」を製作したい。</p>